全従業員参加の脱炭素経営研修
省エネ 6 則ワークショップを開催しました

一人ひとりの行動から「群馬をリードする環境先進企業」へ

冬木工業株式会社（本社：群馬県高崎市、代表取締役社長：大竹良明）は、「群馬をリードする環境先進企業」を目指し、建設業・製造業の両面でサステナビリティ・トランスフォーメーション（SX）に取り組んでいます。その一環として、2026 年 10 月 14 日・15 日の 2 日間、全従業員を対象とした脱炭素経営研修「省エネ 6 則ワークショップ」を開催しました。建設系（工事・営業・積算・設計・総務経理など）と鉄構系（製造・工務・技術・生産設計など）の全部署から、役員から一般社員まで、全 4 回で計 140 名が参加し、部門や現場を越えた班に分かれて、自分たちの職場でできる省エネの取り組みを話し合いました。



研修の様子（2026 年 10 月 14 日）

■ 研修の背景

当社は NTT 東日本株式会社・株式会社 NTT DX パートナー と 2023 年 2 月に SX 推進の連携協定を締結して以降、優先して取り組むべき 8 つの重要課題（マテリアリティ）の特定と全社横断のサステナビリティ推進チームの結成、玉村工場への太陽光パネル設置（2023 年 12 月）、Scope1・2・3 の GHG 排出量の可視化（2024 年 12 月～）、取引先企業への GHG 排出量可視化プラットフォームの無償提供（2025 年 7 月～）を進めてきました。

こうした取り組みを確かなものにするには、設備やサプライチェーンでの施策に加えて、日々の現場や事務所での一人ひとりの行動の積み重ねが欠かせません。今回の研修は、全従業員が同じ考え方と言葉で省エネに取り組むための機会として実施しました。

■ 全社の共通言語「省エネ 6 則」

研修では、製造・建設現場・事務所のどこでも使える 6 つの問い「省エネ 6 則」を学びました。難しい技術の前に、この 6 つの問いで身の回りのムダを見つけることから始めます。



省エネ 6 則 — ムダを見つける 6 つの問い

■ 研修を終えて — 参加者アンケートより

方向性への共感

91 ／121名（75%）



脱炭素経営を進めることに
共感・賛同。否定的な回答はゼロ

省エネ6則は合理的

91 ／121名（75%）



6則を活用した改善活動は
当社にとって合理的

省エネ6則を実践したい

111 ／121名（92%）



「自分の業務で」「チームで」
「すでに実践」のいずれか

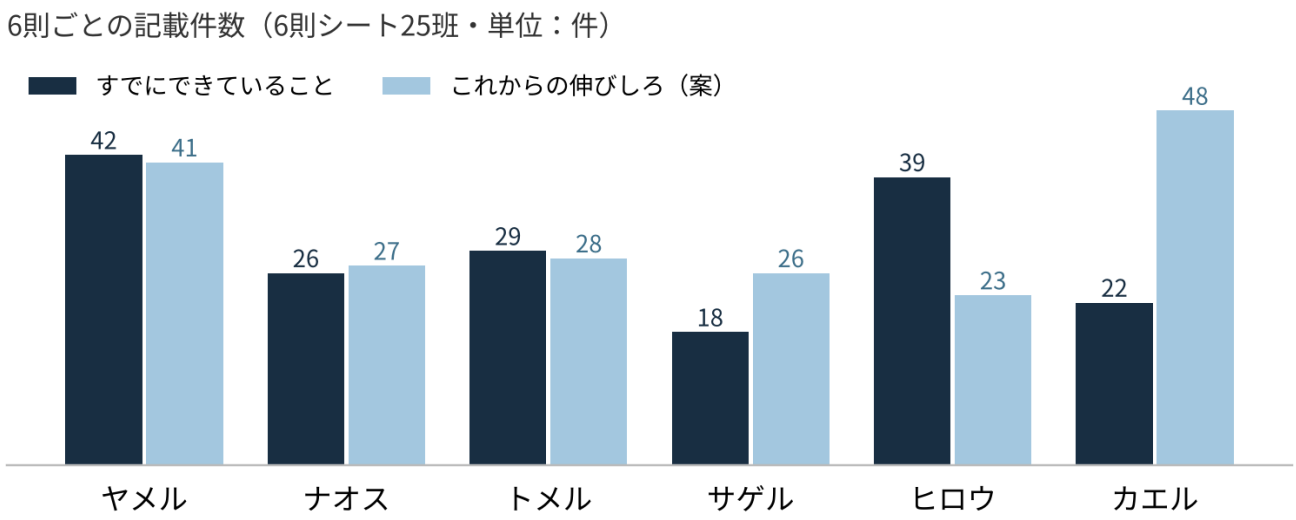
「環境先進企業として脱炭素経営を進めること」への共感（否定的な回答はゼロ）



出典：研修参加者アンケート（2026 年 10 月 14 日・15 日の全 4 回、回答 121 名）。5 段階評価の 4・5 の割合。ピクトグラム 1 つ＝5%

■ 現場から生まれた、398 件の取り組みとアイデア

ワークショップでは、「すでにできていること」と「これからの伸びしろ」を 6 則に沿って書き出し、全 28 班から計 398 件のアイデアが集まりました。建設現場・工場・事務所それぞれの工夫が数多く共有されました。



出典：当日のワークシート（全 4 回）。計 398 件はバックオフィス用シート 3 班を含む 28 班の合計。グラフは 6 則シート 25 班の内訳

- **建設系：**重機・搬入車両のアイドリングストップ、仮設照明・発電機の時間外停止、図面・KY 書類の電子化
- **鉄構系：**機械の主電源 OFF・昼休みの溶接機停止、エア漏れ・ガス漏れのリークチェック、在庫確認による横持ち削減





■ 参加者の声

> 「少し意識するだけで脱炭素活動に繋がることを感じた」（営業部）

> 「他者の業務の課題や考え方を知ることができ、良い刺激となった」（総務・経理部）

> 「現状の仕事に対して六則の考えをしたことが無かったので、改善するべきところがこんなにあるのだなと実感できた」（工務部）

■ 今後の取り組み

当社は今後も、SX 勉強会やワークショップで創出された取り組み事例の全社共有、エネルギー使用状況や削減効果の見える化、好事例の横展開などを通じて全従業員参加の脱炭素経営を進め、お客様・協力業者・社員・地域の「四方よし」の実現と、地域全体での SX 推進に貢献してまいります。

研修協力：［NTT DX パートナー株式会社

本件に関するお問い合わせ：冬木工業株式会社　SX 事務局　［TEL:027-323-5008］